



# 「現場からの GAT ストーリー」キット

## ストーリーを語る時の心得

来たるウェビナーで可能な限りすばらしいストーリーを語り、聴衆を引き付けるためにお役にいただけるよう、心がけるべきことと避けるべきことのリストをまとめました。

### 最も重要なこと

**自分のストーリーを語る：** ご自身が重要な登場人物でないなら（映画化するとしたら主役の一人になるのでしょうか）、別のストーリーを選ぶか、そのストーリーともっと関わりの深い人を見つけて語ってもらいましょう。

**リハーサルを行い、修正し、繰り返す：** ストーリーを頭に叩き込むことで、読み上げるのではなく語れるようにしてください。鏡の前で練習するとよいでしょう。忘れないでください。あなたはカメラに映っているのですから、表情も大切です！

**講義調ではなく会話調で：** 聴衆を見たり、声を聞いたりできない時には、その関心の程度を見極めるのは難しいものです。しかしだからといって、聴衆が目の前にいるかのように振る舞えないわけではありません。リラックスして会話調で語りかけ、ストーリーの重要な部分から次の重要な部分に移る時には一呼吸置き、部屋の中にとらわれの聴衆がいると想定してください。

### 聴衆を魅了するには

**聴衆をつかまえる：** ストーリーには理由があることを忘れないでください。出来事によってクラブは何を得た、または失ったのでしょうか？ あなたの行動が重要または緊急だったのはなぜでしょう？ どんな複雑な事情があって、目標達成への道を阻んだのでしょうか？そして、それらをどのように切り抜けようとしたのでしょうか？

**出だしは力強く：** ストーリーの出だしで聴衆を引き込みましょう。ストーリーが始まった理由（「行動への呼びかけ」とも言います）を語り、自分が何を感じ、目にし、耳にしたかを詳しく説明することで、聴衆がそれらを思い描けるようにしてください。

**着地点を決める：** ストーリーの最終行を考えておくことで、どこで締めくくればよいかを正確につかんでおきましょう。締めくくりが本題からそれてしまったら、ストーリーは忘れられてしまいます。

**自分に忠実に：** ストーリーは自分のスタイルとやり方で語りましょう。聴衆は話し手とのつながりを持つようとしています。話し手がそのストーリーと資料を自分に合わない形式に合わせようとするれば、聴衆はつながりを得ることができません。自分の体験を語ることで、聴衆があなたと深くつながれるようにしてください。

### つながりを生む

- 聴衆が頭末に関心を持つ/気にかけるようにする
- 出来事を詳しく説明し、聴衆がそれを思い描けるようにする
- ストーリーの出来事に対する自分の意見/見方を伝える
- そのストーリーが自分やクラブをどのように変えたかを伝える
- ストーリーをテーマと結び付ける
- 気持ちを表現する
- 可能な場合には使用した資料と結び付ける

### 集中できるようにする

- リストと統計は常に最小限にする
- ストーリーに関連した情報を伝え続ける
- 集中力を保てる静かな場所を見つける
- ストーリーと無関係な事業や行事の PR は慎む
- 割り当てられた時間を守る
- ヘッドセットやマイクを通して自分の声が確実に届くようにする
- パワーポイント・スライドは常に簡潔に- 詳細は言葉で説明する